

様式第 10 号
Form 10

博士論文審査結果報告書
Report of the Doctoral Dissertation Review Result

2024 年 2 月 1 日
Date:

神奈川県立保健福祉大学大学院
ヘルスイノベーション研究科長 殿
To: The Dean of the Graduation School of Health Innovation
Kanagawa University of Human Services

博士論文審査員
Doctoral Dissertation Review Committee
主査 徳野慎一
Chief Examiner
副査 中村 翔
Sub-chief Examiner
副査 口羽 文
Sub-chief Examiner

博士論文審査及び最終試験の結果について、次のとおり報告します。
We hereby report the results of the Doctoral Dissertation Review and the Final Examination.

申請者氏名 Applicant's Name	目黒 景子	学籍番号 Student ID	62145003
論文題目 Dissertation Title	The association between social jetlag and metabolic syndrome in the Japanese working population		
審査年月日 Date of Review	2024 年 1 月 24・28 日		
論文審査及び 最終試験結果 Results of Dissertation Review and Final Examination	合格 Passed		
添付書類 Attached Documents	1 博士論文審査及び最終試験の結果の要旨（様式第 11 号） Abstract of the result of the Doctoral Dissertation Review and the Final Examination (Form 11) 2 論文の要旨（様式第 7 号） Abstract of Dissertation (Form 7)		

様式第 11 号
Form 11

博士論文審査及び最終試験の結果の要旨
Abstract of the results of the Doctoral Dissertation Review
and the Final Examination

氏 名 Name	目黒 景子
論文題目 Dissertation Title	The association between social jetlag and metabolic syndrome in the Japanese working population
論文審査員 Dissertation Review Committee	主 査 徳野 慎一 Chief Examiner 副 査 中村 翔 Sub-chief Examiner 副 査 口羽 文 Sub-Chief Examiner
<p>【論文審査の結果の要旨】</p> <p>【Abstract of Dissertation Review Result】</p> <p>当該論文は、睡眠とメタボリックシンドロームの関係を明らかにし中でも社会的ジェットラグがメタボリックシンドロームと関係が深いことを示唆する研究に関する内容であった。審査員による査読の結果、現代における保健・医療・福祉分野において、社会的意義が認められ、研究方法論旨展開、研究倫理において妥当性を有しており、保健・医療・福祉学の発展に貢献できる学術的価値を兼ね備えていると判断された。</p> <p>一方、公開用の論文とするためにはいくつかの細かな修正点がアドバイスされたが、根本的な問題点を指摘されることはなかった。特に、当該論文は3つのスタディーから成り立っているが、各スタディーの結論が分かりにくいいため、それぞれのスタディーの結論をディスカッションで述べたうえで最終結論にも要約して記載したほうがよいと指摘された。</p> <p>以上より、当該論文は示された博士論文として認められると判断した。</p>	

【最終試験の結果の要旨】

【Abstract of the result of the Final Examination】

博士論文審査および最終試験は、令和 6 年 1 月 24 日 19 時～、28 日 11 時～の 2 回に分けてオンラインで実施された。申請者の目黒景子氏より、英語のスライドを用いて日本語による約 60 分間の研究内容の発表があり、その後、主査・副査による口頭試問を主に日本語で 2 日間の合計で約 45 分間行った。

申請者は、自身の研究内容を的確、明快に発表し、審査員からの、研究の目的、研究方法、研究結果とその解釈、成果の社会的意義などに関する質問に対し、高度で専門的な知識を駆使して、現研究の限界も踏まえて的確に回答した。

以上を総合して、保健・医療・福祉における新たな社会的・経済的価値を生み出す能力、保健医療福祉の向上を担う国際的高度人材として、国内外におけるリーダーシップを発揮できる学術性・専門性・教養・倫理観および価値観を有していると認められ、本研究科博士課程のディプロマ・ポリシーに照らして、博士（公衆衛生学）の学位にふさわしい人物であると判断し、審査員全員一致で、最終試験を合格とした。